

# 令和7年度 第1回山形市スポーツ推進審議会 会議録

## 1 開催の日時及び場所

- (1) 日 時 令和7年8月28日(木) 午前10時から午前11時40分
- (2) 場 所 山形市役所10階 1001会議室

## 2 出席者

- (1) 委員(出席10名 欠席なし)

石井委員 小野委員 鈴木委員 中井川委員 福田委員 逸見委員 星川委員  
松田委員 横山委員 渡邊委員

- (2) 事務局(12名)

松沢文化スポーツ部長 遠藤スポーツ課長  
花輪文化スポーツ調整監(兼)部活動地域移行連携室長 日野スポーツ施設整備室長  
ほか(別添資料のとおり)

## 3 傍聴者

一般傍聴者 なし

## 4 審議経過

### 【報告事項】

- (1) 山形市における部活動の地域移行・地域連携の取組みについて  
事務局より資料1を説明

#### 議 長

2点ほどお伺いしたい。1点目として、実態調査の結果、その実態を維持する方向で、展開を考えるのか、それとも逆に、これは保護者が、あるいは子供たちが理想としているのが実態ではないと思うが、活動の形として、その理想に向かうときに調査とか、方向性があるのかどうかをお伺いしたい。

2点目として、テストケースとして学校単位のクラブの移行も入ってるかと思うが、あくまでも学校の中で考えていくのか、エリア、例えば野球の場合、野球連盟としてエリアを四つに区分して、学校を集約していくパターンを考えていると思うが、資料をみると、今モデルで実施しているところのエリアの子供たちが自力でアクセスできるかどうか非常に重要な問題と考えているが、全体的なエリアに対するデザインみたいなもの、学校の統廃合も関連するが、そういったものがあるのかどうかを教えてください。

#### 事務局

現在の実態を把握したのが、調査結果に表れている。例えば地域クラブの方向性としては、将来的な理想像では、例えば、競技種目で合同的にクラブを結成して、広く活動していくということが想定はされる。現時点では、この実態調査の結果から表れているように、今の学校の単体の部活動が、そのまま同じメンバーで活動したいという意向のもとに、単体型のクラブそれぞれを立ち上げていくような動きがまずは見てとれるところである。その部活動の中では、地域クラブを想定できないという話が、約1割あるとわかって

きているので、そこは市の方で個別に相談を受けるなり、あるいは生徒の選択を通じて、ほかの地域クラブに参加をするなどの情報提供をしていきたいと思っている。

実証事業については、先ほど話したとおり学校単体でのクラブを設立して活動をしようとしているクラブもあるので、クラブ側の意向に沿って展開していければと考えている。

議長

地域クラブは、それぞれ誰が立ち上げるのか。市として立ち上げを促すなど、全体をコーディネートすることはないのか。

事務局

まずは、自発的なクラブの立ち上げを促しそこに向けて、各学校や各部活動に市が出向いて、様々な説明会を行うなどして、クラブ設立に向けた後押しをしている状況である。

議長

新規で先に立ち上がってしまうと、既存のクラブ同士が統合して実施するのはかなり難しい状況だと思うが。

事務局

やはり、競技種目とか、部活動の現状にもよるが、少人数でチームを組めなくなってきた場合は必然的に近隣の中学校と一緒にクラブを立ち上げるなど、そういった動きは自発的に出てきている。また、我々が相談を受けた場合は、どのような対応が生徒たちにとって一番良いのかという視点で様々な相談をしながらクラブの立ち上げを促している状況である。

委員

実証事業を色々やっているが、例えば実施中学校は、何か新たな課題などはあるのか。

委員

高楯中学校の場合は、実証事業を実施してみて、課題は毎回、毎年のように出ているが、成果としては、お金がどの程度かかるか、ある程度の目安が見えてきて、実証事業の委託金がなくなることを想定した場合に、その財源をどのようにしていくか、地域の方との話し合いをしていく中で、来年は、年間で12,000円ぐらいの費用で実施できるのではないかと感触で調整をしている。

課題としては、部活動の加入率総計は58.9%であり、部活をしていないように見えるが、団体種目などでは学校規模が小さいために、例えばサッカーについては、相当数いるものの廃部となり、外部のクラブチームのほうに加入をしており、部活動ではない、この数字とは別に、文化活動化運動かつスポーツ活動をしている子どもは、9割5分以上いるのが実態である。種目がそろっている中学校は、現段階でも、選択する種目があるが、小規模からすると選択肢が少なくなっていることが課題ではないかと感じている。

委員

やはり一番問題なのは、子どもたちもそうだが、指導者という問題がある。スポーツ協会において、指導者バンクをやっているが実際はなかなか登録者が増えない。休日や日曜・祭日に関しては、何らかの形で可能であるが、平日の活動を想定した場合、指導者が必要である。勤務している場合は、企業にも周知をしていく必要があるのではないかと。展開する中で平日の対応で一般企業にも趣旨であるなり、ぜひ、積極的に市からも、説明をする時期に来てると思う。

#### 事務局

指導者の確保については、市スポーツ協会で行っている指導者バンクの充実について打合せをさせていただいた。

動きとしては県でも、指導者バンクを立ち上げ、指導者だけでなく、例えば学校の見回りを行うような方が地域にいないかどうか、そういったことも含めて、バンクを立ち上げると聞いており、そういった動きを注視したい。民間企業への働きかけについては、市の内部で検討させていただきたい。

#### 委員

様々なスポーツの中で資格、ある程度ライセンスを持ってないといけないスポーツもある。資格がないと指導ができない競技もあるのに講習会などが少ないような気がする。

指導者の講習会、いろんなスポーツの講習会を開いて、資格を持ってもらうという指導も必要かなと思う。

#### 事務局

指導者の養成や資格の取得についての研修等について、その点もスポーツ協会と打合せをさせていただき、充実させる方向で打合せをさせていただいた。

一般的に地域クラブの指導者については、県のスポーツ協会が実施している指導者の基礎研修と実践研修があり、その二つの講習を、受けていただくことを現時点では考えている。

さらに高みを目指す、指導者については、日本スポーツ協会の指導者資格の取得を促進するような支援をして実施していきたいと現時点では考えている。

#### 委員

指導者の研修について、去年は山形開催で1会場約50名の参加があった。今の段階では、今年は参加者数がすごく少なく、二、三十名、新庄では約9名、庄内で去年は酒田・鶴岡でそれぞれ30名ぐらい参加した。今年は酒田・鶴岡として、庄内地区で1回開催するが、二、三十名しか集まっていない状況であり、もっとたくさんの方に、研修を受けた方が、地域の指導者として活動していただくのが一番いいのかなと思う。

#### 事務局

県スポーツ協会と打合せをさせていただき、市でも2回の集合研修に地域クラブあるいは現在の活動に携わっている方々に周知をさせていただくため、チラシを相当枚数、配布、説明をさせていただいている。

県スポーツ協会との打合せの中で、そのような集合研修の場合、都合が合わなくてなかなか参加できないということも考えられるため、オンデマンドのICTを使った、いつでもどこでも誰でもできるような形の研修に切替えていただけないかという提案も市から協会にさせていただいた。

そのような動きをしながら、山形市独自でもスポーツ庁の指導者の基礎研修動画があり、そういったものを活用して、オンデマンドの研修ができないかどうか現在検討している最中である。

#### 委員

教員は例えば休日だと、地域に移行したものを指導することは、今後可能なのか。

#### 事務局

平日は、学校の教員が部活動の顧問として指導されている、休日に地域クラブ活動にな

った際に、指導者として指導できるかどうかという御質問だと思うが、答えとしては可能である。

それには手続きが必要となり、兼職兼業許可申請を教育委員会に提出し、許可を受ければ、休日は地域の指導者として、報酬を経た上で指導することができるようになる。

#### 事務局

市の校長会等を通じて、各学校の先生方には周知をしている。兼職兼業というのは、あくまで希望によってされるものであって、それを義務づける制度ではない。そこは各先生方の御判断により、休日の指導は、兼職兼業をしていただくというような仕組みとなっている。

#### 【議事】

(1) 山形スポーツ推進計画 2028 の進捗状況について

事務局より資料2を説明

#### 委員

中学校体育連盟の方からスポーツ施設のことについて、少し御意見申し上げる。

ここ数年、様々な県の東北大会等に行っているが、特に水泳競技については、昨年度東北大会を山形市のスポーツセンターで実施した。

ただ、昨今の暑熱対策を考えた場合に、山形市の子どもばかりでなく東北の子たちもタイムレース等にせざるを得ない状況もあり、東北6県を見ても、山形市で整備するとか、県で整備するとか、ほかの市町村ということも含めてだと思うが、今年度の秋田のプールは、快適に競技も行えるし、場合によっては、学校の校長の立場で、学校のプール施設の老朽化も非常に深刻な問題だと感じている。限られた予算だと思うが、工夫をして、こういった形で整備すれば良いか、10年先ぐらい先の問題なのかもしれないが、水泳の設備を整えて欲しい。場合によっては学校から施設への移動する交通手段も含めて考えた場合に、何か良い方法はないかと思っている。

あわせて、プロスポーツとの連携の部分では、非常にプロスポーツの影響は、子どもたちの刺激になる。ただ一方で、中学校の大会を行う際も、プロスポーツの試合とかち合う機会が非常に増えている。今度、県の体育館も新しくなるため、ある程度緩和されると思っているが、そのような現状があることを申し伝えておく。

#### 事務局

水泳の施設については、東北6県で屋内競技の競技ができる50mプールがないのは山形県だけだと市でも当然把握している。県内唯一の施設になるため、今年、県に対し屋内プールの建設について重要要望事項で要望をしている。

屋外50mプールとなると、やっぱり相当の費用がかさむため、委員が言うように、計画的にやらないといけないと思っている。

また、プロスポーツとの関連ということで、中体連の大会とバッティングすることが多々あり、中体連の大きな大会をできる施設が、今のところ、県運動公園と市のスポーツセンターしか屋内競技についてはない状況。プロスポーツは、上部団体から日程が決められてきて、現状では苦慮しているところがあるが、現状は把握している。

#### 委員

スポーツセンターに関しては、委員が言うとおり、山形市内また近隣も含めて、非常に

満足できるような状況ではないというのが現状。

水泳に関しては、本当に東北の中で屋内プールがないのは山形県だけであり、中学校の大会だけではなくインターハイの予選、高校総体についても、山形を開催地から外すということになっている。それはあくまでも記録重視ということで屋内、屋外でやるようなことはできないということで外されている状況。経費的な部分で、かなり費用がかかることは重々わかっているが、施設の整備に関して、ある程度、長期的に考えてほしい。山形市内にあるスポーツ施設に関して再度見直し等をして、山形市だけの問題じゃなくて、広域的に施設というのは考えていただければならない。人口減少してる中で、山形市に作らなければいけないというわけでもないし、広域的に考えていただきたい。

そのような中でスケート等に関しても、県と市において、新しいスポーツ施設ということで、県の方で、36リンクを作る。武道館等の体育施設については、市の将来的なビジョンというものを示しながらぜひ検討をしていただきたい。

令和10年に山形で初めて日本スポーツマスターズが開催される予定である。山形市がどれだけの役割を担うかわからないが、競技力だけではなく、観光など様々な経済効果が波及される大変大きなイベントである。その中で、施設の在り方もぜひ検討をしてほしい。

いずれにせよ、全体的にも、非常に老朽化が進んでおり、冒頭であった部活動の地域展開に関しましても冷房施設が必要とされている。

#### 委員

施設の問題だが、中学校の地域移行となれば、当然ながら、中学校だけの支援だけでは足りない。当然、小学校の施設も体育館などを使用すると思うが、大分老朽化してる体育館もある。その予算の取り方はどうなっているのか。

#### 事務局

教育委員会でも、長寿命化の計画は立てていると思う。教育委員会の方にも話だけはさせていただく。

#### 議長

施設について先ほどの指導者の話もそうだと思うが、数が減っていく中でどう集約化して、そこに、お金を注いでいくかという話かなと思う。1個1個別々ではなくてやっぱりまとめて考えるべき中身なのではないかだろうか。